

2017年度 一般社団法人久慈青年会議所
理事長所信

一般社団法人久慈青年会議所
第50代理事長 繁名 隆

今から50年前、互いを磨き高め合うことで地域づくりに貢献するという熱き思いを持った44人の青年により、全国で368番目となる青年会議所（JC）が誕生しました。鉄腕アトムやアポロ計画により、多くの人々が未来への期待と夢を描いていた高度経済成長期を青年として過ごしたかの先達が思い描いた未来図はどのようなものだったのでしょうか。そしてその未来図は現実のものとなったのでしょうか。

時は流れ2017年、国際社会のみならず地域社会においても我々を取り巻く情勢は目まぐるしく変化し、激動の時代と言われる現代において、混沌とした状況を未知の可能性と置き換えて前向きに活動する青年会議所も、刻一刻と変化する時代のニーズに対応すべく変化が求められています。「明るい豊かな社会の実現」という変わらない使命のために私たちは変わり続けなければなりません。創立から半世紀、50周年を迎える久慈青年会議所はこれまでの歴史から学ぶことで、地域の今を動かし、輝く未来を拓いていきます。

【ハチドリの一としづく】

今を生きる我々が市民とともに描く10年、50年後の未来図に、この地域がしっかりと存在し、夢と希望に満ちた人々の暮らしが描かれていること、そしてそれを実現するためには変わらない使命のために変わる、少しばかりの勇気が必要です。

あるとき、森が燃えていた。

森の生き物たちは我先にと逃げていった。

でも、クリキンディという名のハチドリだけは行ったり来たり。

口走で水のしづくをいってきずつ運んでは火の上に落としていきます。

動物たちは「そんなことをして一体何になるんだ」と笑います。

クリキンディはこう答えました。

「私は、私に出来ることをしているだけ」

“ハチドリの一としづく”

一人の人間は一羽のハチドリに過ぎず、その行動は、ひとしづくに過ぎないかもしれません。しかし、ひとしづくが無ければ何も始まりません。我々のひとしづくがいつかきっと大きな変化をもたらすと信じて、勇気を持って歩んでいきましょう。

【人づくりから始まるまちづくり】

「地域の期待に応えられる人格を磨き合い、それによって微力ながら、地域の為に奉仕できることを心から願うものであります。」

これは設立趣意書の一文です。まちづくりのための人づくりこそが久慈J Cの創始の精神であり連綿と受け継がれてきた我々のDNAであります。このJ Cという学び舎から今の地域経済を牽引する多くの経済人を輩出してきました。現代社会において、インフラ整備や情報化・IT化が進み成長する地域と衰退する地域の差が日増しに顕著なものになっており、全国の半数を超える自治体が消滅の危険性があると言われていています。地域の問題を自分の問題と置き換え、地方消滅時代を逞しく生き抜く青年の英知と勇気と情熱がこの地域に明るい展望をもたらします。さらに、人は人でしか磨かれれないという言葉があります。だとすれば磨き合う人は多い方が効果的です。互いに磨きあえる強く優しい組織を創造するために、地域に潜在する今を動かし未来を拓く人材を発掘し、明るい豊かな地域の実現に向け邁進していきます。

【まちのブランドを発信する】

この地に一大ムーブメントを巻き起こし社会現象とまでなった「あまちゃん」ブームも去り、ドラマ放映前とさほど変わらぬ風景が広がっています。ブームというのは一過性のものであり、地域の活気が持続的なものにするためには、常にまちのブランドを発信し続けなければなりません。我々は、未来を生きる人のために、地域に山積する課題とどのように向き合うのか、現実を直視する勇気が求められています。地域が慢性的な不況のまま殺伐とした地域へと成り下がるのか、それとも先駆者として課題を乗り越え、隆盛を築いた地域として脚光を浴びるのか、これは一概に政治の裁量や責任ではなく、我々の肩にかかっています。特にこれからこの地域を活性化していく為には若者の力が大きな原動力となると考えます。我々のブランドである「ひろのビーチサッカーフェスティバル」は本年で15回目の節目の開催となります。参加益、地域益、LOM益をさらに追求した、継続事業だからこそ出来る新たな魅力に溢れる事業へと昇華させます。また、この地域には独自の地域資源や文化が存在します。それらの「たから」に加え、今を生きる我々が市民とともに新たなブランドを確立し新たな価値を発信していきます。

【未来の創造に向け、今を動かす】

地域の未来を作るのは、未来を生きる人でなく今を生きる我々です。地域の宝である子供たちが夢を叶えるのは当事者である子供たち一人ひとりの努力次第ですが、我々にはそれをサポートし環境を整える責務があります。都会だから、地方だからといって描く夢にギャップが生じてはなりません。子供たちが夢を叶えられる未来を創造するために、行政でも教育機関でもない、我々だからこそ出来る青少年育成を展開していきます。また、久慈地域はこれまで幾度となく大きな災害に見舞われてきました。東日本大震災を筆頭に、台風被害や大規模森林火災など様々な災害

を経験しました。災害抜きにしてこの地域の歴史を語ることは出来ません。この地域を子供たちに前向きに継承し、未来永劫誇りに思える地域にするために、市民の防災・減災の意識の向上は欠かせません。これまでの災害の風化を防ぐために、災害の歴史を振り返り、安心・安全なまちを未来に残していきます。

【創立50周年、JAYCEEによる新時代の幕開け】

J Cは単年度制で役職も事業も変わる、不連続の連続が特性の組織です。そのスタイルにはメリットとデメリットが存在しますが、常に新鮮さが保たれる点や全ての会員に成長の機会が与えられる等、デメリットを補っても有り余るメリットに溢れています。我々の先達は、50年の長きに渡り、組織の特性を活かし「まちをつくる人」をつくってきました。過去からの連続した繋がりがあからこそ今があり、今この瞬間が未来へと繋がっていきます。本年、創立50周年の大きな節目を迎えるにあたり、我々現役メンバーは「JAYCEEによる新時代の幕開け」を基本理念とし、先輩諸兄が積み上げてきた歴史の最前線を歩む意義をしっかりと考え、過去から学ぶことで今を動かし、夢溢れる地域の未来を拓いていきます。

【効果的運営による組織の強化】

組織の根幹は人です。J Cのルールは、地域社会のルールと比べて、必ずしも合理的で効率的といえるものではないかもしれません。一見、非合理的で非効率的と思えても、あえてルールに則った行動をすることで、組織の安定した運営ができると考えます。コンプライアンスの徹底を進める過程においては、これまでに培ってきた歴史と伝統を継承しつつも、時代に則した運営の方法で進化させていかなければなりません。ルールの範囲内で合理化や効率化を図ることにより、自分で考え、自分で判断するといった自律性を養い、メンバー各々を成長させ組織力のさらなる強化に繋がります。人の成長、人と人との繋がりが組織を強化していくのです。また、組織内における情報の発信を活発にし、メンバー間の情報共有の充実を図ります。さらに、ホームページや各種メディアを利用して、J C運動だけでなく、この地域の魅力を対外に向けて発信します。

【Challenge For The Creation】

私は2009年に久慈J Cに入会し、自己の成長とまちの発展のために活動をしてきました。思い返してみると私のJ Cライフはトライ&エラーの繰り返しで、誇れるものはほとんどありません。しかし、この組織の活動を通じて多くの経験と、かけがえのない仲間という財産を得ることが出来ました。J Cは単年度制、いわゆる不連続の連続の組織です。毎年変わる組織の中で様々な仲間から支えられ、育てられ、自分自身でも成長を感じるに至っています。これまで多くのJ Cメンバーと関わりを持たせて頂きましたが、全員が社業に携わり、そのうちの多くが家庭を持つ社会人です。なぜ忙しい中で自らに修練を課しJ Cを行うのか。そこには自らの成長と地域の発展という明確な目的があるからに他なりません。物事は本気で向かい合い取り組むことで変化が生まれ、進化を遂げます。地域の未来創造を担う我々が青年経済人として、JAYCEEであ

ることが武器になる魅力的で強い組織を作り、我々の展開する運動や活動が今を動かし、この瞬間の連続を地域の明るい未来の創造に繋げるために、逞しく挑戦していきます。